ひと ひと
女と男の情報紙

HIMAWARI
Women & Men Information

ひまわり

Vol.27
2019.3.1

特集

男女共同参画社会の実現に向けて
その人がその人らしくあることを大切に
～多様な性を認め合う社会へ～



写真「ひまわり」
滝澤 肇さん（中奈良）撮影

第13回 熊谷市男女共同参画推進表彰

昨年11月に開催した「第39回 フォーラムくまがや２０１８」において、男女共同参画の推進に貢献する取組が評価され、二つの事業者と個人一名が表彰されました。

本表彰は、熊谷市男女共同参画推進条例に基づき、平成18年度から実施しており、男女共同参画社会の実現に向け、積極的に男女共同参画の推進に関する取組を実施している個人及び事業者を表彰するものです。

（掲載順不同）

株式会社エムエムジー経営研究所（本石）

税務会計サービス・経営コンサルティングを手がけ、男女ともに、取り組みたい業務のヒアリングにより業務の幅を広げるとともに、人材育成に努め、多くの女性職員が指導的な役割に従事しています。

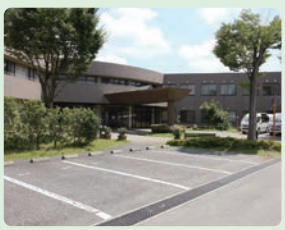
埼玉県の「多様な働き方実践企業」ゴールド認定企業として、積極的に仕事と子育て、家庭生活との両立を支援するための多様な働き方ができる職場づくりに取り組んでいます。



医療法人仁和会 埼玉江南病院（江南中央）

女性の採用・人材育成・管理職への登用を積極的に推進し、また、短時間勤務制度、限定勤務時間制度を設けるなど、働きやすい環境整備に努めています。

埼玉県の「多様な働き方実践企業」認定制度のゴールド認定を受けるなど、女性が自分に合った生き方、働き方ができる職場環境づくりに取り組んでいます。



塚田 とよ子 氏（西野）

道の駅めぬまの運営組織の立ち上げに関わり、地元農産物を使った商品開発などに携わっています。また、地域初の女性農業委員として積極的に活動してきました。

家族経営協定の締結の推進、地元農産物の学校給食への供給体制の整備、女性組織の妻沼ふれあいセンター女性部代表などの活動に取り組み、講演会講師も数多く務めています。



特集 その人がその人らしくあることを大切に
～多様な性を認め合う社会へ～

ここ数年、テレビや新聞等で「LGBT（エルジービーティー）」という言葉を聞いたことがある方も多いのではないでしょうか。今回は、この「LGBT」について学び、性の多様性を認め合い、全ての人がありのままに生きることができるよう、私たちにできることを一緒に考えていきましょう。

LGBT（エルジービーティー）ってなに？

LGBTとは・・・

- **L**：Lesbian（レズビアン）（女性の同性愛者、女性を好きになる女性）
- **G**：Gay（ゲイ）（男性の同性愛者、男性を好きになる男性）
- **B**：Bisexual（バイセクシュアル）（両性愛者、両方の性を好きになる人）
- **T**：Transgender（トランスジェンダー）（心の性と体の性が一致しない人）

の頭文字から作られた言葉で、性的少数者＝セクシュアルマイノリティの総称です。

「性のあり方は人それぞれ」

その人自身の性のあり方を「セクシュアリティ」といいます。セクシュアリティは、人の数だけあります。
下記の図のように、組み合わせにより、１人ひとり違う性のあり方となるのです。

セクシュアリティ ＝ からだの性（生物学的な性） × こころの性（性自認） × 好きになる性（性的指向） × 表現する性（服装・しぐさ等） ＝ 多様な性 十人十色

LGBTの人は人口の8.9%、**約11人に1人**の割合という調査結果があります。（出典：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査2018」）私たちが気付いていないだけで、身近にいて思い悩んでいるかもしれません。LGBTの人は、自らの意思や他人の意見で性的指向を変えることはできず、それは趣味や好みではありません。

レインボーフラッグ

LGBTの尊厳と社会運動を象徴する６色の虹色の旗です。LGBTに関するイベント等で頻繁に掲げられています。多様性を認め合う素敵な虹色の６色の旗を、あなたの心にも掲げましょう。



ありのままの自分でいることのできる社会へ

変わりつつある社会

2008年、「人権と性的指向と性自認に関する声明」が国連総会に提出され、日本政府もこの声明に賛同しました。2014年、オリンピック憲章に性的指向を理由とする差別の禁止が盛り込まれ、米国では、2015年、連邦最高裁判所において同性婚を合憲とする判決が下されました。

また、国内では、2015年に文部科学省から「性的マイノリティの児童生徒全般」に配慮を求める通知が出され、LGBTの人の人権擁護への取組の推進が図られています。近年、「パートナーシップ制度」を導入する地方自治体もあり、その流れが全国に広がりつつあります。

今、私たちにできること・・・・

- 性別を決めつけず、「男なんだから／女なんだから」という固定的な性の役割を押し付けてはいけません。
- LGBTに関する研修会等に積極的に参加し、正しい知識を学び、理解を深めましょう。
- ホモ・レズなどの侮蔑的な言葉は使わず、LGBTをからかうような振る舞いをしてはいけません。
- カミングアウトされた時は、「話してくれてありがとう」と伝え、話をしてくれた当事者の心に寄り添いましょう。そして、そのことを本人の了解を得ずに他の人に漏らしてはいけません。

インタビュー LGBT（エルジービーティー）を生きる ～誰もが生きやすい社会に～



池田（いけだ）　Kさん
熊谷市在住。
セクシュアリティは、トランスジェンダーFtM。
現在、「レインボーさいたまの会 チーム熊谷」で活動をしている。
※FtMとは・・・Female to Maleの略。女性から男性へ性別移行を望む人。

Q 小さい頃の池田さんのお話を聞かせてください。

幼少から小学生の頃は、男の子達と遊ぶことが多く、昆虫に興味があり、虫博士と呼ばれていました。中学校・高校等で当たり前とされている、「男子はズボン、女子はスカートを履く」などの決まりごとに、いつも傷ついていました。

Q カミングアウト（これまでに公にしていなかった性的指向や性自認のこと等を公表すること）について教えてください。

両親に自分の性について話したのは最近です。カミングアウトしてからは、私の精神的な支えとなり、活動も応援してくれています。

大人になってからは、社会から求められるジェンダー（社会によって作り上げられた「男性像・女性像」）規範により、辛いことも増えましたが、一方で、そういった問題について耳を傾けてくれる人の存在のおかげで、精神的に楽になってきています。

Q 現在、どんな活動をしていますか？

昨年の初夏に「パートナーシップ制度（同性カップルを自治体が公に婚姻に準ずる関係として証明する制度）を全国に広げよう！夏の陣成果報告会」というイベントに参加し、それをきっかけに「レインボーさいたまの会」の活動に加わりました。

「レインボーさいたまの会」は、県内の性的マイノリティの人やアライ（LGBTを理解し、支援する人のこと）の人が集まり、相互ネットワークの構築や制度政策の提言を行ったり、講演活動をしています。その「レインボーさいたまの会」の「チーム熊谷」から、昨年、パートナーシップ制度の導入を求める請願書の提出をしたいとの思いを市議会各会派の議員に伝えました。その行動が、市議会のLGBTに関する議員質問に結びつきました。

Q 性の多様性について、もう少し詳しく教えてください。

LGBTはあくまで総称で、これに当てはまらない様々なタイプの性的少数者もいます。例えば、IS（アイエス）（インターセックス＝性分化疾患）、A（アセクシュアル＝無性愛者）、Xジェンダー（性別自認を認めたくない、決まらない人）等がそうです。性的少数者は皆さんの身近にいるかもしれません。「一人ひとりの個性」としてLGBT等の性的少数者であるかどうかに関係なく、性的指向や性自認はグラデーションになっていて、全ての人が含まれるという考え方から、最近ではSOGI（ソジ）（性的指向・性自認）という言葉があります。LGBTに限定しないこの言葉は、全ての人に当事者意識を持ってもらうことができます。LGBT以外にも様々な性のあり方と言葉があることを皆さんにも知っていただきたいです。

Q 皆さんに伝えたいこと・求めることは何ですか？

まずは、パートナーシップ制度を公的に認めてほしいです。諸外国では、同性カップルにも法的な家族としての保護を行っています。日本では、同性カップルが正式な家族として認められないために、病院での面会等を断られることがあり、賃貸住宅を探すのも難しいです。この制度があれば、パートナーであることが証明できます。また、LGBの人だけでなく、T（トランスジェンダー）の人にも有用です。Tの人は、現状では、性別変更するには非常に高い基準が設けられているため、パートナーと異性としての婚姻をすることができない場合が多く、この制度があればそれを解決することが可能になります。性的マイノリティは自己肯定感が低く、制度がないことで悩んでいる方が多いです。人権を最大限尊重し、保護してもらいたいです。

二つ目は、皆さんがLGBTに関する研修会等に参加する機会があれば、配布物等で正しい知識を身につけ、それを普及させてほしいです。メディア等（特にネット上）の悪意に満ちた情報は信じないでください。例えば、「LGBTの人は暴力的な人が多い」とか・・・。

他にも、大人たちの言葉によって子どもたちに差別意識がすり込まれてしまう場合があるので、言葉にも気を付けてほしいですね。

全ての人が、自分の性を自分らしく表現し、誇りを持ち、自分らしさを大切に生きる権利があります。性の多様性を認め合い、誰もが住みやすい社会の実現を願っています。

現在、私が活動している「レインボーさいたまの会」では、交流会や勉強会等を行っているので、一度ぜひ参加してみてください。

【注釈】
※「レインボーさいたまの会」の情報は、Facebook、Twitter「@rainbowsaitama」でご覧になることができます。

まとめ

男らしさ・女らしさではなく
自分らしさを大切に

人にはそれぞれ持って生まれた能力や個性があります。一番大切なことは、その人らしさを大切にし、自分の能力を発揮することができる社会を築いていくことです。LGBTの人が、生きづらさを抱えて生きていかなければならない社会ではなく、お互いの性の多様性を認め合い、誰もが生きやすい社会をみんなで実現させましょう。

輝いてます！

街で出会ったいきいきさんをご紹介します

「タグラグビーで企業を活性化」



（株）Warai兄弟社
代表取締役
新井（あらい） 孝一（こういち）さん（東別府）

前進しながら楕円のボールを後ろに送るラグビーのプレーはそのまま残し、タックルなどの激しい接触を無くすことで、安全にプレーを楽しむことができるタグラグビー。新井孝一さんは、そのタグラグビーを使ったユニークな研修方法で、企業を活性化する取組を行っています。

新井さんは、深谷高校ラグビー部出身です。歯科技工士として働いた後、歯科サポート会社に勤務し、そこで「歯科医院にはチームワークが大切だ」ということを痛感します。そんな中、元ラグビー選手で、タグラグビーを用いた企業研修システムを開発した村田祐造氏に出会い、師事。「大好きなラグビーで、歯科医院をサポートできるのでは」と、地元熊谷で起業しました。今では、子どもたちへのタグラグビー指導や歯科業界以外からの研修依頼も多いとのことです。

例えば、新入社員研修でタグラグビーを導入します。すると、顔を合わせたばかりの新入社員がすぐに仲良しに。また、リーダーシップを取り始める人、慎重に分析して行動する人など個性も見え、配属の参考にする企業もあるそうです。

老若男女一緒に楽しめるように、走ることを禁止して行うことも。いろいろな制限の中でラグビーを体験すると、アイデアを出し合い、助け合い、まさに「ONE FOR ALL ALL FOR ONE（一人はみんなのために みんなは一つの目的のために）」のラグビー精神を体感します。研修後の職場は、みんな笑顔。チームワークが良くなり、業務も円滑になったとの報告が届きます。「ラグビーの力ってすごいですよ」ラグビーの新たな魅力を、独自の方法で広めている新井さんです。



風間 麗子さん（肥塚）撮影「母が生ける向日葵」



会議室をご利用ください。

熊谷市男女共同参画推進センター“ハートピア”では、会議室の貸出を行っています。会議や研修等にどうぞご利用ください。

会議室（定員78人）

利用方法や使用料金等は、下記へお問い合わせください。

ハートピア事務室
☎048-599-0011
（ティアラ21駐車場は有料となります。）



ひとりで悩んでいるあなた、一度相談してみませんか？

◆ハートピア相談室 ☎048-599-0015

相談名	相談日	時間
電話相談・面接相談（予約不要）	月～金曜日、第１・第３土曜日（祝日、年末年始を除く）	9:00～17:15
弁護士による相談（要予約）	隔月１回（奇数月）	10:10～11:40
臨床心理士による相談（要予約）	毎月１回（第４金曜日）（祝日の場合は変更）	9:00～16:00
保健師による相談（要予約）	毎月２回（第２・第３水曜日）（祝日を除く）	13:30～15:30

（各相談とも無料・秘密厳守）

配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力（DV）に悩んでいる方、自分が我慢すればと思わずに、相談してください。

どんな小さなことでも、相談員がお聴きし、一緒に考えます。

電話相談は匿名でもお受けしていますので、まずはお電話ください。

編集後記

いつの間にか偏った考え方、凝り固まった思い込み。いろいろなテーマに取り組むたびに、私の中のそういうものに気付かされます。フラットな心と目を忘れずにいたいです。
秋元 留美子

男らしさ、女らしさという押し付けではなく、人にはそれぞれの持って生まれた個性があり、それを発揮できる環境が大切だと思いました。
清水 治美

取材をさせていただきました。「自分らしさを大切にできる」お互いに「人権を尊重する」社会という集団の中で、根底にあるべき大切な事を噛み締める思いです。
柴生田 幸子

今回から、編集員に加わりました。先輩編集員と一緒に、「つい読んでしまう紙面作り」を心掛けさせていただきます。微力ですが宜しくお願いします。
冨田 桂治

一人ひとりの個性を大事にして、思いやりを持って社会活動を行うことで、誰もが活き活きとした豊かな社会へとなっていく。今回の機会を通して感じさせていただきました。
石川 雄太

募集

★表紙やカットとして掲載する「ひまわり」の絵・写真・その他の作品を募集します。
★「輝いてます！」（市内で活躍されている方の紹介）のコーナーに登場してくださる方を募集しています（自薦・他薦は問いません。）。
※両募集とも、応募多数等により掲載にならない場合がありますが、どうぞご了承ください。
★本紙へのご意見、ご感想をお寄せください。

【応募・問い合わせ】
〒360-0037
熊谷市筑波三丁目202番地ティアラ21（4階）
熊谷市男女共同参画推進センター【ハートピア】
・TEL 048-599-0011
・FAX 048-599-0012

PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆インキ

■発行日 平成31年３月１日（年２回発行） ■発行 熊谷市 ■編集 男女共同参画室（ハートピア内）・「ひまわり」編集員会
「ひまわり」Vol.27は、71,000部作成し、印刷・製本にかかる市の負担は、１部当たり５円です。